

本懇談会の問題意識・検討事項案

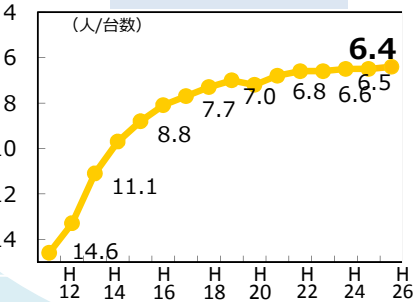


2020年代の教育の情報化に向けた論点

1

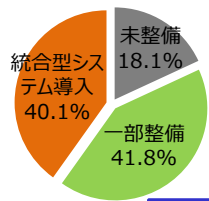
現状

教室のICT環境整備の伸び悩み



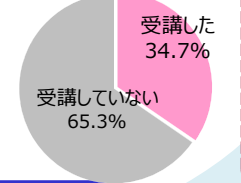
校務のICT化の遅れ

学校の校務支援システムの導入割合



教員のICT活用指導力の不足

ICT活用指導力に関する研修を受講した教員割合



教育をとりまく動き

- ◆教育イノベーション
 - データの積極的活用による個に応じた学びの充実
- ◆データ・エビデンスに基づく行政
 - 政策の質と透明性の向上へのデータ活用の期待
- ◆学校が抱える課題の複雑化・多様化（不登校・発達障害・貧困家庭など）
 - 個に応じた支援ニーズの増加と多様化
- ◆教員の多忙化・「チーム学校」の必要性
 - 日本の教員の勤務時間が参加国中最長(TALIS調査)

社会の変化

- ◆人口減少による地域リソースの減少
 - 退職による指導ノウハウ喪失や小人数による学習効果低下の懸念
- ◆経済格差の拡大
 - 子どもの貧困の拡大と貧困の連鎖の深刻化
- ◆防災・パンデミック・サイバーセキュリティ等の危機管理
 - 地域による共助機能の強化の必要性増大

ICTをめぐる動き

- ◆IoT、ビッグデータ、モバイル、AI
 - ICT技術の日常生活での活用の拡大
- ◆クラウドコンピューティング
 - 自治体におけるクラウド型サービスの普及

論点

1. 「スマートスクール」(仮称) 構想に向けた方策【2020年代への方策】

- ・新たな学びと教員の業務改善の両立
- ・データを効果的に活用し、授業における個に応じたきめ細やかな指導の充実
- ・データ活用による学校・教育委員会等による学級・学校支援・政策立案への支援

「一人一台タブレット環境」と「堅牢な校務支援システム」の構築の進め方

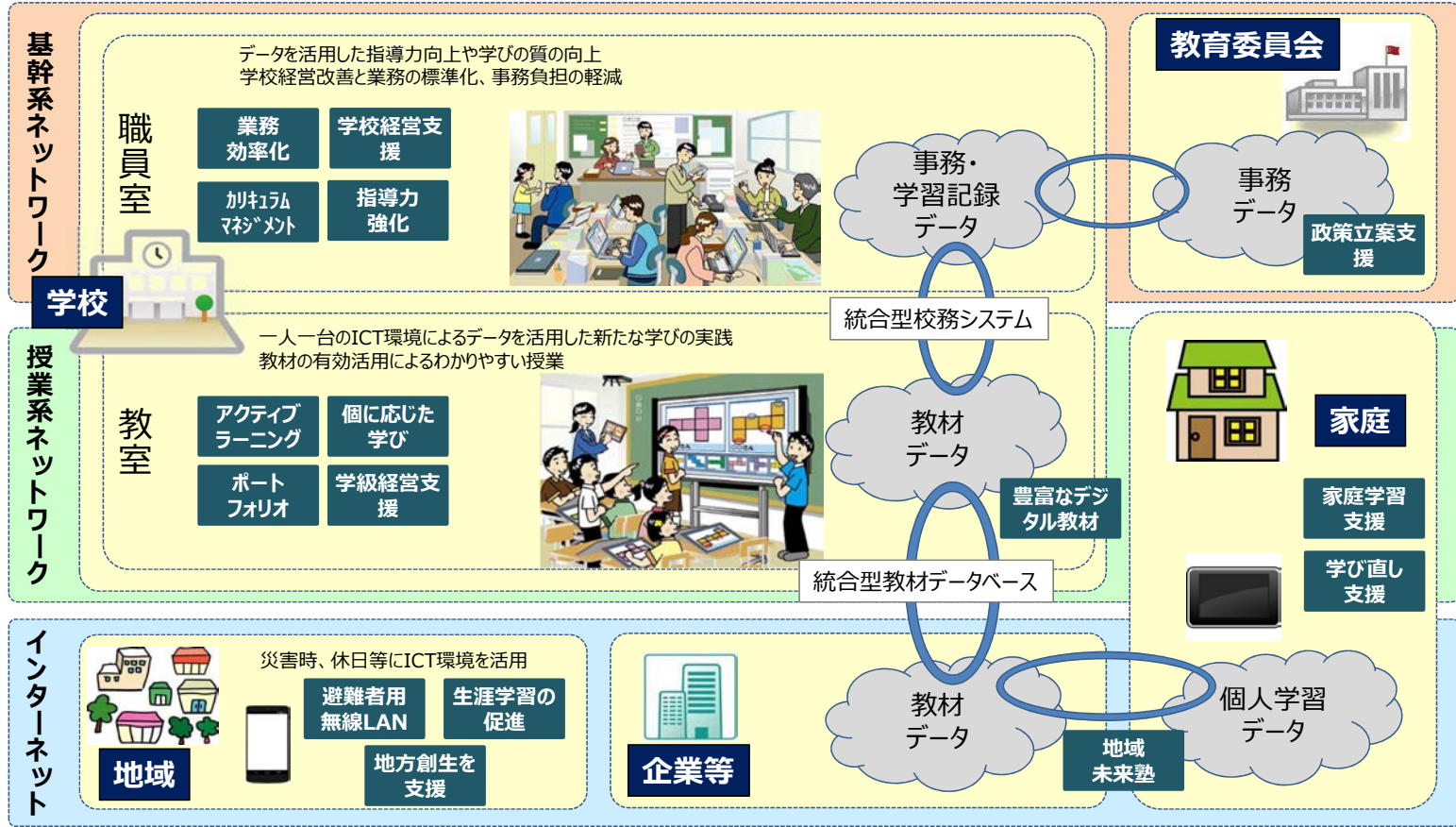
2. 授業・校務両面でのICT環境整備の加速化に向けた方策【当面の方策】

- ・低廉・安定したサービス・機器等の調達や業務の標準化
- ・官民連携による学校・教育委員会の支援の在り方

3. 地域×学校×ICTによる地域・学校連携の推進方策

- ・地域未来塾等におけるICT利活用
- ・学校のICT環境構築を通じた地方創生の在り方

- 学校・教員を支援するため、校務・教務の総合的なシステムを導入し、データを活用することで、授業や校務などの改善につなげる「スマートスクール(仮称)」を展開
- データを蓄積・分析することで、教員の指導力の向上や学びの質の向上を図り、学校経営や政策立案にも役立てる
- データは、セキュリティレベルに応じたネットワーク内で安全に管理し、目的に応じ連携し様々な分析を実現



検討事項案①

1 「スマートスクール」(仮称) 構想について

従来の子どもの学力向上や教員の業務改善の視点にとどまらず、教員の目線に立って、体験的・問題解決的な学習や個に応じた学びなどの学びの革新や、エビデンスを活用した学校・学級経営や教育政策の推進を強力に支援するツールとして、授業・校務へのICT活用を一体としてとらえることについてどう考えるか(「スマートスクール構想(仮称)」)。その実現に向けて、教員の指導力面、学級・学校運営面やシステム面の課題についてどう考えるか。

なお、システム面については、「一人一台タブレット環境」や、「堅牢なバックオフィスシステム環境」(クラウド環境を含む)及びWi-Fi・光ファイバーなどにより、学校・教育委員会が学習記録等のデータを授業・校務両面で安全に活用できる環境の構築にかかる個人情報の扱い等の課題について、学校のシステム面の現在の状況を踏まえ、どう考えるか。

また、教員のICT指導力向上を図るための取組強化やその支援のあり方についてどう考えるか。

2 授業・校務両面でのICT環境整備の加速化について

学校のICT環境整備については、授業・校務両面で、地域間に格差が生じている状況にあるが、現状をどのように評価するか。また、その原因は何か。

とりわけ授業・校務両面でのICT活用に応じた必要な機器・システムの整備や、低廉・安定した運用を実現するため、以下の点についてどう考えるか。

- ① ICTを活用した授業のモデル化や校務にかかる業務標準化、システム・機器の標準化について。
- ② 教育委員会の調達の在り方、例えば複数教育委員会での共同調達や、教育委員会・首長部局間の連携強化や、官民が有機的に連携したICT環境整備に向けた支援のあり方について。

さらに、ICT活用による新たな学びの推進、校務の効率化による子どもと向き合う時間の増加等を実現するために、ICT支援員の効果的な配置や活用可能なコンテンツの充実など、教員がICTを活用しやすい環境の構築についてどのように支援すべきか。

3 学校のICT環境の多角的な活用による地域づくりについて

NPOや民間企業と連携し、学習が遅れがちな児童生徒等を対象とした教育コンテンツの開発や、地域未来塾等でのICT教材の利活用の取組、遠隔地間の学校同士をICTで結び学校教育の質の維持向上を図るような取組が行われており、ICT活用を通じた学校・地域連携が進められている。また、学校を防災拠点として、教室に防災無線LANシステムと兼用したネットワーク整備を行う事例もある。このような「地域ぐるみ」の教育の情報化をさらに加速するための取組について何が考えられるか。

4 各項目共通事項について

自治体の基幹系業務システムに関する整備(クラウド化の推進等)や情報セキュリティ対策の強化に係る状況を踏まえつつ、安全・安定かつ効率的な学校のICT環境整備をどのように進めるべきか。

また、外部人材・民間ノウハウの活用による「チーム学校」推進の観点から、教育の情報化についてどのような取組が考えられるか。



懇談会(親会)において、基本的な考え方及び課題整理、基本的な政策アジェンダ設定について検討する。具体的な対応方針については、これらについてとりまとめた後、ワーキンググループを別途設置し検討を進める。

教育の情報化加速に向けた課題例

1. 「スマートスクール」(仮称) 構想

学級	個に応じた学びの促進：児童生徒の習熟度等に対応した学習指導、ポートフォリオ等の学習過程の見える化による学習効果向上に向けたICT活用のあり方	データに基づく政策立案支援	安全・安心にデータを管理し利用できる情報セキュリティの確立	外部人材・民間ノウハウ活用による「チーム学校」の実現
	学級経営の改善：データを活用した経営改善に向けたICT活用のあり方			
学校	教員の指導力向上：以下を促進するためのICT活用のあり方 データ活用による新たな指導方法の具現化、データ共有によるチームとしての指導力強化、指導案・教材等のデータ化等によるベテラン教員の指導ノウハウの継承			

2. 授業・校務両面でのICT環境整備の加速化

授業	教室のICT環境整備の促進：ICT活用方法に応じた学校への支援、機器(スペック等)の標準化	学校の支援策・教育委員会の官民連携でのICT環境の低コスト・安定化	授業モデル化校務標準化
	教材コンテンツとその利用環境の充実：教材ライブラリ等の構築		
校務	統合型校務システムの導入促進：共同調達、首長部局との連携		

3. 学校ICT環境の多角的な活用による地域づくり

地域連携	学習支援：家庭学習支援、生涯学習の促進、貧困の連鎖解消に向けた学習支援	安全・安心にデータを管理し利用できる情報セキュリティの確立	外部人材・民間ノウハウ活用による「チーム学校」の実現
	地域コミュニティ活動支援を通じた地域づくりの促進		
防災	防災機能強化：無線LAN等を活用した避難所としての防災情報基盤の強化との連携		

- 平成28年2月15日に第1回親会議を開催。
- 年度内に第2回、第3回親会議を開催し、基本的な考え方及び論点整理を内容とする「中間とりまとめ」を行い、それに基づき「教育の情報化プラン（仮称）」を策定する。
- 平成28年4月以降、①「スマートスクール」構想検討WG、②ICT環境整備加速化WG、③ICTによる地域の学び推進WG（いずれも仮称）を設置し、具体的な課題の抽出及び方策について検討。（メンバーは懇談会構成員に別途追加し構成。）
- 第3期教育振興基本計画やICT環境整備目標の議論等も見据えて検討。

